

気持ちに余裕を。失敗しても反省しすぎない

―学生時代、どんなアルバイトをさせてもらいましたか？

コンビニエンスストア(CVS)や結婚式場などでアルバイトをしていました。CVSではレジや品出し、清掃など、結婚式場ではインカムをつけて受付や誘導(ゆうどう)の案内をしていました。

―接客業が多いんですね。実は接客、苦手なんです。でも、選んだ職はなぜか接客ばかり。不思議だと思いませんか？

―夢は何ですか？



※一時期、凝(こ)って描いていた服のしわの絵

―どんな絵を描いていたんですか？

一時期、服のしわが好きになったことがあり、そればかり描いていました。何やってみようかと自分で思いながらも、そればかりを描いていましたね。

―なぜ、今の職に就こうと思われたのですか？

学生時代は、好きなことを職にしたいと思っていました。でも今の夢は、好きなことを続けていきたいなあという感じですかね。好きなことを決まらずに、好きなこととは続けていきたいという思いです。

―好きなことは、具体的にどのようなことですか？

大学で美術系の学科に通っていたこともあり、絵を描いたりすることが好きですね。そのようなことを続けていければなあと思います。

―仕事をするうえで心掛けていることは？

余裕を持つことですかね。根を詰めすぎないというか。失敗したとしても、反省しすぎないようにする。気持ちに余裕を持って、ゆったりとした心でやっていきたいと思います。仕事だから絶対にできないばならない、というわけではないと思いますし。ゆとりを持って行うことが大事かなと思います。

名言との対話

その悩み あの人だったら、どう語るか

就職するのが、こわいです。

―就職するのがこわいです。職場での人間関係がうまくいかず、何度か転職をくり返してきました。事務職を希望していますが、自分に務(つと)まるのかも不安です。いざ就職となると、こわいです。旅人A…過去のことがトラウマになってしまうのは、確かに正しいですね。周りの人の言葉や態度を気にしすぎ、自分のせいではないかと思ったり、相手を責めたりして、人間関係がぎくしゃくしちゃう。

旅人B…でも、就職することにこわさを感じながらも、何とか前に進みたいと思われているこの方は、立派だと思います。実は私も、似たような経験をしてきたのですが、ある本で次の言葉を目にして、ちょっと気持ちが楽になりました。

執筆家I氏…「他人の言うこと、他人のすることを気にすることで、自分を不自由にしているのは、自分でしかない。」

旅人A…自分が思っていたことはたいへい思い過ぎで、周りの人はそれほど深く考えていたりしないんだよね。あれこれ思い過ぎをしないうえに、何でもいから暇つぶしできるもの、打ち込めるものがあるといいよね。

旅人B…あと、自分で選んだ仕事でも、はたして務(つと)まるのか、私もいまだに悩むことがあります。

旅人A…他人との比較や自分の理想と比較して、やる気をなくしてしまうことはありますね。自分は役に立たない底辺の人間とまで思っちゃったり。そんなときに私は、ある芸人さんと偉人さんの言葉を読み返しています。

芸人E…「人としての底辺？いいじゃねえか！どんなにどん底にいても、どんなにボロボロになっても生きれば。」「生きることに自分がお前の輝きだ！」

偉人M…「失敗に打ち負かされたときはふたたび戻ってくればいい。たとえうまくいなくても、自分のしたことの大半が人間らしいものであれば満足すべきであり、自分が戻るべき道を愛するのだ。」



生きることに自分がお前の輝きだ！

推しコメ



行田市のkokoカフェ。ドイツ風の薄めで外側がカリカリ、内側がクレープのような食感のパンケーキが斬新(ざんしん)でおすすめ！通常メニューのほか季節で変わるパンケーキ、毎月変わるランチメニューもあります。フードだけでなく季節ごとに変わる店内の装飾も楽しめます。フードの他に装飾もご覧になってはいかがでしょうか？

(筆者・賀藤祥子)

【所在地】

行田市駒形2丁目8・15 ※月・木曜日は定休日。



コラム「自問自答」

(筆者・結城雪)

「その言葉、本当に責任(せきにん)を持てますか？」。私は一か月半前から今に至(いた)るまで、その言葉を反すうせざるを得ない▼人間関係のトラブルから、めまいと耳鳴りに悩まされ続けている。この広報誌の制作にも携(たずさ)われなかった。だが、当の本人たちは、これを知る由(よし)もないのだ。そして、私自身も過去にしまった失礼な発言のその後を知らない▼世界はこのように回っているのだろうか。それはインターネットも現実も一緒だ。しかし、この悲しい世界の回り方も、少し考えて発信するだけで、だいぶ変わっていくだろう。「親しき仲にも礼儀(れいぎ)あり」という言葉はよくできている。以前私が見かけた接客業の女性は、どんなに親しいお客が相手でも、考えてから発言するらしい。プロである▼世界は広い。私一人が努力したところで、ほとんど変わらないかもしれない。それでも、この世の苦しみを一つでも減らせたなら、きっと一つぶん分、素敵(すてき)になれる。言葉に、マナーと責任(せきにん)を。

コラム「自問自答」

(筆者・黒猫)

なかなか言い出せない。人とのやり取りが緊張(きんちよう)するのだ。生きていくうえでコミュニケーションが必要なのはわかっている▼これまでに人間関係のつまづきで転職を重ねてきた。大人になってから診断されたのだが、発達障害が関係しているのだろうか。「協調性のない人」とレッテルを貼られ続けてきた。そのせいか、話すのに勇気がある。さらに、子どものころ、「構音(こうおん)障害」であったことに最近、気がついた。うまく発音できなかったのだ▼だから私は「報連相(報告・連絡・相談)」がこわい。言うまでもなく、仕事上での最優先事項(さいゆうせんじこう)だ。この前、訓練を突如(とつじよ)休まざるを得なくなったのだが、担当の職員に伝えるのを忘れてしまった。指摘(してき)され、はじめて気がついた。ただでさえ話しかけるのが苦手なのに、伝えることも忘れてしまうなんて▼報連相をものにした。バライドを何気なく口ずさむように。「もしも願いが叶(かな)うなら」言葉を奏(かな)できるように話せればと思う。

【気まぐれ欄】 今月のおすすめ本【Book Review】

※読書好きメンバーによるおすすめ本の「書評」です



『せんせい。』
著者：重松 清
出版社：新潮社(新潮文庫)
発行日：2011年6月26日

【評者：木瀬】

「にんじん。私はおまえの声が嫌いだった」。工藤先生はある生徒ににんじんと名付け、心の中で呼んでいた。にんじんの私語の多さを理由に叱(しか)りつけたことがきっかけで忌(い)み嫌うようになる。クラスで練習していた三十人三十一脚ではタイムが伸びないことからにんじんをわざと補欠にした。にんじんを嫌うたびに工藤先生の中の罪悪感(ざいあくかん)がホコリのようにゆっくりと積もっていく。「ゆるしてくれ、にんじん」。そう願うもなかなか好意が寄せられない。にんじんが卒業した後も工藤先生のホコリが拭(ぬぐ)われることはなかった。十数年後に開かれることになった同窓会に勇気を出して参加することとなる。にんじんは果たして現れるのか。

【気まぐれ欄】 今月の『クスッと』マンガ

※マンガ好きメンバーによる「クスッと」笑ってほしいツッコミです

